

令和8年6月4日(火)
令和8年度工学部教育企画委員会 FD 部会

令和8年度第1回教員相互授業参観(オープンクラス)に対するご意見・感想について

令和8年5月14日(木)～5月27日(水)に、令和8年度第1回教員相互授業参観(オープンクラス)を実施いたしました。いくつかご意見や感想をお寄せいただきましたので、以下に掲載いたします。

※掲載内容については、個人が特定されないよう一部改変しております。

《機械工学・システムデザイン学科》

- ・スライドで授業を行っていたが、単にスライドを映すだけでなく書き込みを効果的に用いていて参考になった。
- ・数式を板書しながら説明することの難しさを実感しました。
- ・授業の最初に前回の復習になる演習を WebClass で行うのは良いアイデアだと思いました。(そうすると最初から出席する学生が増えそうなので)。また学生への配布資料はところどころ意図的に白抜きにしておいて、授業中に投影するスライドにはその部分を記してあるのも、準備に手間はかかりますが授業中に学生がスライドを眺めるようになるので良いアイデアだと思いました。スライドの字の大きさはもう少し大きいほうが良いと思いますが、伝えたいこととの兼ね合いで難しいかもしれません。
- ・学生が少人数だったので授業が教員と学生の対話形式で進められており、教員が学生に質問を投げかけると、学生が積極的に答えていたのが印象的でした。
- ・ペンタブ系のデバイスを使用した講義形式で、説明補助のための恒久的な記入と、視線誘導のための記入が使い分けられており、学生にとってわかりやすいと思いました。また授業内の小テストがとても良い塩梅の難易度になっていて、回答を締め切った後にすぐフィードバックされるのも良いところだと感じました。自分の授業にも取り入れたいです。
- ・受講生との距離感と教室の緊張感の保ち方について参考にさせていただきます。
- ・資料を配布した上での板書の授業なので、没入する(できる)受講生にとっては最高の授業だと思います。ついてこれる学生は決して多くは無いのではないかと思います。選択科目ということもありますし、良い意味で大学らしい授業だと感じました。
- ・資料を配布してあるということもあり、適度なペースだと感じました。またタブレットを用いた授業ですが、その場で赤で強調し、それがじきに消えるのは良いと思いました。
- ・科目の特性もあるとは思いますが、他の授業との関連を時折口にされながら進めていくのは、学生が食いつくと良いと思いました。あとこれは講義室の問題なのですが、パワーポイントベースで授業を行う場合、どうしても黒板灯を消すことになるので、たまに黒板に書く場合、そのままだと少し見づらいように思いました。学生は若いので十分見えるのか

もしれませんが、少し気になりました。

- ・授業資料に AI を用いた画像を使用していた。今後は多くの人が同じような手法を取るだろうから、自分もそういった方法に適応しないと仕事が間に合わなくなると感じた。
- ・授業担当者の深い知見と豊富な経験のもとに成り立つ授業であった。誰でもできる授業ではないことがわかった。
- ・演習を中心とした授業で、実際の数値計算プログラムに触れることで数値計算というものの雰囲気をつかんでいるように感じた。どのような講義にしろ、演習を効果的に取り入れることが大事であると改めて感じた。
- ・両者ともに少人数の実験系の授業であり、3 研究室見学させていただきました。内容は基礎的なものではあるが、各教員の言葉の節々に、最新の情報や、経験が入り混じっており興味を掻き立てるような内容だと感じました。特に TA の働きが目に入り、後輩に対して親身に教えている姿が印象的だった。授業を受けている学生にとっても話しやすいと思われるため、実験がスムーズに進行していると思われる。
- ・具体例をたくさん挙げており、わかりやすい講義であった。
- ・スライドの使い方や小テストの実施方法など参考になりました。
- ・学生の演習し易い環境を整えた良い講義でした。
- ・説明が大変わかりやすかった。溶接・圧接の具体例が見たいときに動画が出てきたのでとても参考になった。
- ・各回でさまざまな体験活動を行った後、最終回ではプレゼンによる主体的な発表の機会を設けるなど、よく工夫がされていた。
- ・講義スライドの作り込み方が参考になりました。

《電気電子物理工学科》

- ・本講義では、学生が心理的安全性を最大限に確保できる環境が構築されているように見受けられました。受講生は極めてリラックスした姿勢で着席し、授業中に複数のデバイスを同時に多用していました。受講者が独自のネットワークを駆使してマルチタスクを完遂する高い処理能力を有していることが伺えます。他者の視線を意識せず、ありのままの姿で教室に存在できるのは包容力の賜物であり、大胆な運営だと感銘を受けました。講義進行は、スライドのキーワードを、個々の受講者のノート PC 上での空欄スライドに転記させるという教育手法を用いていました。そのおかげで、受講者は負荷を最小限にすることができており、迷うことなく、反射的に作業を完遂できる設計になっておりました。これは「誰も取り残さない」という方針での学生への献身的な配慮かと思えます。複雑な論理展開をあえて排した構成は、現代の学生の現状に寄り添ったものとなっているようです。電磁気学の基礎概念については、数理的な厳密さを削ぎ落とし、高校物理でやった身近な事象として素朴な口頭説明をされていました。受講者に寄り添って、平易にしようとするあらわれかと思いました。また、磁気記録方式の説明において横磁気記録を主軸に据えら

れており、クラシックな技術体系を重んじ、最新動向に惑わされない非常に安定した教育内容となっていました。ただ、現在の受講者のみなさんは、まだ計り知れない余力が残されているように見受けられました。彼らの底堅いバイタリティを正しい方向へ導くためにも、今後は「数理モデルによる厳密な証明」や「即時的な理解度確認テスト」を導入するなど、受講者の能力を試す機会を増やしてみたいかがでしょうか。そうすることで、学生たちが現在見せている姿勢は、さらに知的な躍動感を伴うものへと変化すると思います。

- ・メインの講義に板書を用いるためか、前の方に座っている学生がとても多いのが良いと思った。板書も文字が綺麗で読みやすい。学生の対応待ちの間の口頭説明に簡単でも良いので要点のスライドがあると良いなと思った。板書の際に後ろのモニタには古いスライドを表示したままなので、可能なら黒板カメラをモニタに映すと良いかもと思った。
- ・良いと思った点・・・学生が解けそうなレベルの問題を選択していたこと、解説の際にグラフを用いて視覚的なイメージを与えていたこと。気になった点・・・ホワイトボードの照明のほか、1列目の照明を消さないとスクリーンが見づらいかも知れません。自分も気を付けようと思います。
- ・前回課題である二分法の解説から始まり、出席課題（A・B課題）および応用課題へと段階的に進められていました。講義では While 文やフローチャートを用いたアルゴリズムの理解を丁寧に促されており、その後、方程式の解法としてニュートン法について、説明・実装・再解説という流れで体系的に指導されていました。全体として、理解の定着を重視した丁寧で分かりやすい講義であると感じました。
- ・板書による授業であったが、ゆっくりとした語り口調、丁寧でかつわかりやすい板書など随所に工夫が施されており、大変参考になった。
- ・1年生向けのこともあるのか、受講生が講義室(55番教室)ほぼいっぱいにいました。講義室の後ろに着席している受講生の中には教科書を参照しながら真剣に取り組んでいる様子などもうかがえる一方で、授業と関係なさそうなスマホ操作をしている人もいました。
- ・声が明瞭で聞きやすく、話される速度もちょうど良いです。時々ですが、板書の説明箇所を指し示さないで説明されることがあり、どこの説明なのかついていけなくなることがありました。
- ・理論面について手計算を交えて深く説明されていて、演習科目と相補的な内容であった。
- ・授業の前半で課題を出題して学生が試行錯誤する時間を長く取るという進め方は主体的に課題へ取り組ませる方法として参考になった。

《情報工学科》

- ・予想していたよりも学生が授業に集中していた。持ち込み PC による授業なので、学生が授業とは別のことをやっているかもしれないと予想したが、学生が真面目に授業に集中していて感心した。

- ・自身も同様の講義を担当しているので大変参考になった.

《応用化学科》

(回答無し)

《環境社会デザイン学科》

(回答無し)

以上